

大学のライフスタイルとしての 機関リポジトリ

土屋俊(千葉大学)

電子情報通信学会オフィスオートメーション研究会
情報処理学会グループウェアとネットワーク研究会
共催研究会

(2008年5月23日、千葉大学)

オフィス・オートメーションの哲学

- 1989年の時代背景
 - AI: Brooksちよつと前
 - CSCW勃興
 - HTTP登場。つまりインターネット爆発直前
 - SGML(1986)、HTML(1989) ⇒XML(個人的にはTEI)
 - 言語処理におけるコーパス利用開始直前
 - (個人的には)音声対話研究の勃興
- 理論的関心: 共同行為・共同的目的達成の構造
- 歴史的関心: コンピュータ利用の歴史回顧

共同行為

- 言語行為の理論を基礎として構築
- オントロジーの共有
- 争点
 - 個人行為+相互観察+コミュニケーションへの解消
 - 共同的目的ないし共同的(全体)意思の存在
- 共同意思決定の理論
 - 投票の理論
 - ゲーム理論
- 知識の共有 ⇒ ここが欠けていたような気がする
 - 知識は行為の道具? 行為は幸福の実現の道具?

コミュニティ？

- オフィス
 - アドホックなコレクション？
 - 安定的な人間関係？
- 目的の達成
- Gesellschaft(society)/Gemeinschaft(community)
- Research community, campus community, global community
- 重層的な人間関係
- 伝え合う・言わなくてもわかる

閑話休題

- WWWの登場
- 学術雑誌のタイトル単価高騰(1990年代)⇒学術雑誌の電子ジャーナル化(ScienceDirectほか)
- 学術コミュニケーション(scholarly communication)の変革へ
 - arXive.org(LANL ⇒ Cornell)
 - PLoS
 - Library consortia
 - 機関リポジトリ(institutional repository)

機関リポジトリ

- a university-based institutional repository is a set of services that a university offers to the members of its community for the management and dissemination of digital materials created by the institution and its community members.
- I.e. Organizational commitment to stewardship of digital materials:
 - organization
 - access or distribution
 - long-term preservation

ARL Bimonthly Report 226, February 2003

Institutional Repositories: Essential Infrastructure for Scholarship in the Digital Age

by Clifford A. Lynch, Executive Director, Coalition for Networked Information

なぜ機関リポジトリ

- オープン・アクセスからの議論
 - セルフ・アーカイビング派 (Harnad、UK 下院 Select Cmmtt 等)
 - オープン・パブリッシング派 (CDL、Boston College、SPARC 白書等) ⇒ 新型大学出版会？
- コレクション構築からの議論
 - Uva 流古典的議論 (= 日本の「電子図書館」)
 - コーネル大学流 (arXiv.org, Euclid—ちょっと変則？)
- e-Learning からの議論
 - たとえば、OCW (⇒ DSpace)、ELI@Yale
- 大学論的アプローチ
 - Caltech 流

要するに、機関リポジトリとは

- 機関の責任において設置され、運営される
- 機関の資源によって設置され、運営される
 - したがって、文書を利用することによって、利用者が費用を負担することはない
- (原則として) 機関内で作成された文書類を保存する
- 保存は電子的に行う
 - 電子的に保存された文書は、インターネットを経由して誰でも利用可能である

「機関」とは？

- 「大学」「研究機関」を指す
- 学部、学科、研究室、個別研究者は？
 - 上述機関からの委任によって運営の一端を担う
 - つまり、ボトムアップではない
- JSPSやJSTのような資金提供団体は？
 - 研究者・教育者と共通の目的を有する必要がある
- 国立国会図書館や国立情報学研究所は？
 - 研究者・教育者と共通の利害を有する必要がある

文書類とは？

- 研究成果物
 - プレプリントとポストプリント
 - データベース、テキストベース、校訂本、音声、画像・映像資料
 - 博物資料
 - 特許？？？
- 教育素材
 - テキスト、参考書、参考資料、演習・試験問題、図版、実験シミュレーション等
- 文書館的機能の対象
 - 行政文書、個人メモ、写真等

「電子的に」とは？

- 現状では、
 - デジタイズされた資料として保存
 - なんらかのマネージメントシステムによって管理
 - メタデータをハーベスト可能な状態として
 - World Wide Webを基礎として利用可能
- それゆえに生ずるさまざまな技術的課題
 - 保存(マイグレーション・エミュレーション)
 - 文書等形式の標準化と管理システム
 - メタデータ形式の標準化(利用用・管理用)
 - 利用可能性の向上とインテグリティの確保
 - 重複努力の回避

「誰でも」「費用負担なしに」とは？

- アクセス・コントロールを行わない
 - ただし、ライセンスによる導入資料の場合が問題
 - 利用実績のカウントは問題
- 課金を行わない
 - コストの回収を行わない。つまり、機関がコストをすべて負担する
- いわゆる「オープン・アクセス」の状態になる

大学になんのメリットがあるのか？

- 機関のアイデンティティの確立
 - 研究と教育に関する社会的説明責任の履行
 - RAE・QAA的評価およびアクレディテーション的評価への対応
 - 歴史的アイデンティティの創造と継承
- 研究者にとっての研究インパクトの増進
- 教育者としての社会的責任
 - 教育は教材につきない
- 大学資源の社会還元

千葉大学学術機関リポジトリ (CURATOR)


- 2003年図書館で実験開始(日本で最初)
- 2005年正式公開(図書館の運営)
- 何でも集める原則
 - 既発表論文・既刊著書
 - 『千葉医学雑誌』『公共研究』等々
 - 科研費報告書、学位論文その他
 - 教材・授業資料
 - 研究データ(CEReS)、作品(工業意匠)等
- 技術にはこだわらない
 - 全文検索はScirusへ、当然Googleも
 - トップページも凝らない



CURATOR (Chiba University's Repository for Access to Outcomes from Research) captures, preserves and makes publicly available intellectual digital materials from research activities on Chiba University campuses, including peer-reviewed articles, theses, preprints, statistical and experimental data, course materials and softwares. CURATOR is intended to function as the portal for the outcomes from Chiba University's research activities. The University Library is responsible for building and operating CURATOR under the guidance of the Faculty Committee for Improved Scholarly Information Availability, which commissioned by the Library Board of Faculty Representatives to systematically promote and arrange disseminative activities by the University.

SCIRUS 検索窓
CURATOR 検索窓

- [Browse](#) browse items by resource types, creators, and date
- [Simple Search](#) simple search by keywords
- [Advanced Search](#) advanced search by using Boolean operators
- [User Registration](#) registration is needed for those trying to submit content for the first time
- [Content Submission](#) (ID and password are required)
- [About CURATOR](#) links to various information on CURATOR and institutional repository at large

CURATORはOAI-PMHに準拠しています。 

Chiba University Library: 1-33, Yayoi-cho, Inage-ku, Chiba 263-8522 Japan
TEL: +81 43 290 2253
© 2004 Chiba University Library. All Rights Reserved.

For all email enquiries please contact joho@ll.chiba-u.ac.jp

全国的展開

- 2005-2007:NIIの委託事業
 - 初年度20大学弱
 - 現在82サイト
 - OAI-PMHによるメタデータ交換
 - 著作権ポリシーの調査
 - 利用のされ方の調査
- 2008-2009:NIIの委託事業第2期
 - 資源の再利用
 - CiNiiなどの連携、学位論文⇒全体としての基盤

学術機関リポジトリ構築連携支援事業

NII Institutional Repositories Program

 検索

- HOME
- ニュース
- 事業について
- 機関リポジトリ一覧
- 委託事業
- イベント情報
- ドキュメント
- お問い合わせ

About Us 事業について

[詳細はこちら](#)



機関リポジトリとは、大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービスです。

国立情報学研究所では、これまでのコンテンツ関連事業の成果を継承、拡充させ、次世代学術コンテンツ基盤の整備に資するために、各大学における機関リポジトリの構築とその連携を支援しています。

平成19年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系)申込受付を開始しました。

Current IRs 機関リポジトリ一覧

[詳細はこちら](#)



日本国内で公開されている機関リポジトリ一覧です。

Projects 委託事業

[詳細はこちら](#)



国立情報学研究所では多くの大学に機関リポジトリ構築推進のための事業を委託しています。

Contact お問い合わせ

[詳細はこちら](#)



学術機関リポジトリに関するご質問・ご意見はこちらまで。

Events イベント情報

[詳細はこちら](#)



学術機関リポジトリに関するイベント情報です。

News

ニュース [一覧はこちら](#)

2008/05/16
[「ORE仕様書とユーザガイド」アルファ0.2版を翻訳公開](#)

2008/05/15
[平成19年度CSI委託事業報告交流会\(コンテンツ系\)申込受付開始](#)

2008/04/10
[平成19年度委託事業成果報告書に関するFAQ追加](#)

Document ドキュメント

- 基本文献
- 翻訳資料
- コンテンツ提供
- システム情報
- 広報資料
- 委託事業各種様式

もう一度考え直す

- 外向け発信のことばかり議論しているみたいだが、大学コミュニティそのものにとっての意味、意義は何か？
 - 投稿して掲載され、その雑誌を講読していれば問題ないはず ⇒ 他人のためになぜそんなに努力するのか？
- そもそも大学の教育・研究の成果物とは何か？
 - 「論文」はいつまで成果物の王様か？

未来の教育の基盤かもしれない

- 期待される高等教育
 - 自分で問題を設定し、自分で問題を解決し、自分で知識を更新できる能力を持つ人材を育てる⇒知識基盤社会へ
- これまでの高等教育
 - 教室・教科書・試験・実験室・権威
- これからの大学
 - 学生に可能な限り多様な素材を(電子なので可能)
 - いつでも、どこでも、学べる環境
 - あえてキャンパスに呼ぶならばショウケースも必要

未来の研究の基盤かもしれない

- 計算科学の主流化
 - 実験できない世界、シミュレーションするしかない世界(文系でも)
- データマイニングによる発見⇒データ再利用
- 方法が決まると一気に結果が出てしまう(人ゲノムなど)⇒結果から過程へ関心がシフト
- さらに、結果を「公開」することはいとたやすい(ウェブがあるから)査読という制度は必要？
- データと過程と成果を共有するプラットフォームが必要。ただしプロジェクトベースでは再利用が保障されない⇒機関リポジトリ　そして、それはコミュニティでもある

⇒機関リポジトリをよろしく

特殊IEICE的問題

- 信学技報は、引く手あまたのコンテンツである
- 著作権許諾ポリシーがちょっときつすぎる
- 論文誌の電子化が「遅れている」
 - ビジネスモデルができていない
 - 売れるコンテンツを売れていない
- 企業の関与が大事だが、大学にとってはつらい

SCPJ

Society Copyright Policies in Japan 学協会著作権ポリシーデータベース English

学協会の著作権ポリシーを調べる

学協会著作権ポリシー一覧

学協会名から検索

(学協会名の一部から検索できます。and,or検索はできません) [検索結果の見方](#)

電子情報通信学会 検索

雑誌名から検索

(雑誌名、ISSN(ハイフンは除く)、ヨミの一部から検索できます。and,or検索はできません)

検索

関連リンク

- [NII-ELScンテンツの機関リポジトリへの提供許諾条件一覧](#)
 ...CiNii (NII論文情報ナビゲータ)で無料一般公開をしている学協会誌について、各学協会に対して学術機関リポジトリへの本文コンテンツ複製収録の可否を確認しました。このページは、収録の可否および条件ごとに、各学協会の意向をまとめたものです。
- [SHERPA/RoMEO - Publisher copyright policies & self-archiving](#)
 ...英国SHERPA Projectが運営。洋の出版社の著作権ポリシーを集めたデータベース。

- [Green](#) ... 査読前・査読後のどちらでもよい
- [Blue](#) ... 査読後の論文のみ認める
- [Yellow](#) ... 査読前の論文のみ認める
- [White](#) ... リポジトリへの保存を認めていない
- [Gray](#) ... 検討中・非公開・無回答・その他
- [すべて表示](#)

登録データ数 1,818件
うちGreen37件、Blue190件

SHERPA/RoMEO 検索

SHERPA RoMEO

Journal titles

Publisher names

search

Any or All keywords or

Exact phrase only

名称:社団法人電子情報通信学会

- ポリシー:Blue(査読後原稿のみ認める)
- 出版社版の利用:可
- 公開場所:著作者個人のWebサイト
機関リポジト
- 公開条件:権利表示を行うこと
出典表示を行うこと
利用は著作権の範囲内に限られる旨
の表示を行うこと
出版社版へのリンクを表示すること
猶予期間を遵守すること
事前に照会を行うこと
掲載から半年経過後